

## 地域密着型サービスの自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念はある。しかし職員は通常の勤務の中で理念のことを考える余裕はないようであるが、目につくところに張り出すことで意識は高まったようである。	○	理念は、職員が考えて作ることが一番良いことだと思う。今後も適切な理念を考えて目につくところに張り出していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有はしている。日々の現場の中で職員が常に理念の事を考えて援助を行うのは困難なようである。しかし、毎朝のミーティングで理念に振り替えるような指導は、おこなっている。	○	今後も理念を忘れることなく職場で理念の振り返りを行っていく。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進委員会を通して、理解してもらえようになっている。(地域の中で暮らし続けるような理念は作成されていない)	○	今後も運営推進委員会を通して家族や地域の方の人々に理解してもらえように取り組んでいくと共に、理念の中に地域の中で暮らせるような理念を作っていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	施設前の道路が地域住民の散歩コースになっているので、散歩をしている人と挨拶をしている。	○	今のまま気軽に声をかけていきたい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	推進チーム、学校、ボランティアを通じて、施設への訪問を受け入れている。	○	今後も交流の機会をできるだけ増やすようにおこなっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	運営推進会の中で地域で役立つ施設になりたいと 訴えている。特に災害時には施設を利用して欲しい ことを話している。	○	地域の人に役立つことがないか、今以上に取組 んでいきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期的な会議を開き改善をおこなっている。	○	今後も会議等を利用し具体的な改善を行って いく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている	会議の中で援助の内容について、話題が上がるが なかなか現場にて行えることが困難。	○	どうしてもできないかを検討して、行えるように していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	利用者の相談を介護保険課に相談し指導やアド バイスを頂いたことがある。相談する事で、施設 の質の向上を図っていくことができた。	○	今後もおこなっていききたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	研修等に参加し学ぶ機会を設けている。必要な 利用者がいた時、家族へ話したことがある。	○	研修会等の参加をおこなっていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	朝、夕のミーティングを行い、職員の利用者へ対 しての言葉かけ、当日のケア内容を把握し適切な 援助を行っている。	○	虐待の研修会へ参加することを考えていき たい。社内での勉強会等を行っていき たい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとり、重要事項説明、重度化した時の指針等を利用し、当施設の説明をおこなっている。	○	今後も十分な説明を行い理解や納得を図る。
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と話し合う時間を毎日設けてその中で不満、苦情等を受け付けるようにしている。	○	今後も続けていきたい。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月家族へ宛てた、文書を作成し報告を行っている。また、家族が訪問時には必ず施設の様子や本人の様子を伝言するようにしている。	○	今後も続けていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時（最低でも月に一回は必ず家族の訪問がある）に意見、不満、苦情等がないか家族に尋ねる機会を設けている。職員間では、申し送り、苦情処理等を利用し職員は、情報を共有している。問題については、すぐに改めて対応をしている。	○	早急に対応することで問題解決を行っていく。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を設け、提案を聞いている。また朝、夕のミーティングの場で情報を共有するようにしている	○	職員が意見や提案を話しやすい環境を今後も設けていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	早出、日勤、遅出の職員を配置して業務がスムーズに行えるように調整を図っている	○	今後も必要があれば柔軟な対応を行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設のデイサービス職員と利用者の交流を図り馴染みの関係作りを行っている。また関連会社のデイサービスを利用者が訪問して一緒にレクリエーションを行っている。	○	今後も交流を続けて行き、馴染みの関係作りを行っていく。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な職場研修会議で認知症の勉強会をおこない、順次職員を認知症研修に参加するように計画を立てている。	○	研修会に参加していく。
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会県北ブロックを作り研修会に参加して同業者間の交流を行っている。	○	今後も交流を重ねていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事上での相談が気軽にできるように相談を受ける職員を配置して業務がスムーズに行えるようにしている。	○	今後も職員がストレスを軽減できるように、話しやすい職場作りを目指していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、定例の会議に出席して職員の意見を聞くことで職員の努力や実績、勤務状況を把握することになっている。	○	今後も職員の勤務状況や実績を把握できるように職員と関わりをもつ機会を増やしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時には、面接の時間を確保し本人の思いを把握し問題が解決できるように相談に乗るようにしている。必要があれば他の施設、行政、地域包括支援センターへ紹介をする。	○ 今後も相談者には面接を行い問題の解決を図っていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時には、面接の時間を確保し本人の思いを把握し問題が解決できるように相談に乗るようにしている。必要があれば他の施設、行政、地域包括支援センターへ紹介をする。	○ 今後も相談者には面接を行い問題の解決を図っていく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を十分に把握し、今在宅で生活をする上で一番大変な事を把握しその部分を緩和することができるように、サービス事業所等を紹介するようにしている。	○ 今後も相談を受けた時は、相談者の問題を解決できるように、サービス事業所や行政、地域包括支援センターの紹介等を行っていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービス等を利用することでグループホームと交流する時間を確保することができるので、職員入居者と馴染みの関係を築くことができるのでそのことを家族、本人に説明している。	○ いきなり開始するようなことがないように、本人、家族の思いを十分に把握するようにして援助を行っていく。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者一人一人の日常生活を支えるために共に食事を作り、洗濯物を干したりして家庭生活の環境を作っている。	○ 今後も共に行い、よりよい関係を作っていく援助を行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者についての様子を家族へ連絡し連携を図るようにしている。必要時には記録をしている。	○	今後も連絡し連携を図っていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月、家族が訪問する時間を利用し本人の様子を話す。手紙を利用し文書にて様子を記載している。	○	今後も家族本人の要望、よりよい関係が築くことができるように支援していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で使用していた、馴染みの品を部屋に飾ったり必要があれば、いつも手の届くところに置くようにしている。今まで利用していた美容室等は関係が続けている	○	今後も自宅で続けていたことが、施設でも続けていくことができるように支援していく。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の中には、相性があり支障をきたすこともあるが、問題を早急に解決し円満な関わり合いができるように、努力している。	○	日課のお茶の時間等を利用して、利用者同士、円滑な関わり合いができているか、職員は把握し問題があれば早急に解決できるように、上司や家族へ相談するようにする。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関係を断ち切らない関係を大切に行ってきたが、その時の利用者、家族の考え方にも関係してくる。	○	施設の方針としては、関係を断ち切らない付き合いを行いたいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にモニタリングを行うことで把握ができる。本人が希望する生活が行えているかを確認している。	○ 今後も本人が望む生活ができるように支援を行い、支援ができるかを確認していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設に入居したから、急に暮らしぶりが変わることのないように今までと同じ生活が出来るように施設計画に織り込むようにしている。	○ 一人一人がこれまでの暮らしが続けられるように支援していくことを図っていききたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の日課表を作成し援助ができるように努めているものの個別的に援助することが困難な時があり画一的な援助内容もある。	○ できるだけ個別的な援助ができるようにおこなっていく。
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的な会議を開き、介護計画についての話し合いを行っている。必要時には家族へ相談している。そのことを記録に残している。	○ 今後も適切な援助が行えるように会議を行っていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングを行い、計画が適切に行えているかを記録している。必要時には見直しを行っている。	○ 定期的なモニタリングを行い、適切な援助を図っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録を利用者ごとに記録する。職員間では申し送りの記録を記載し情報の共有を行っている。	○	今後も情報の共有を行い、介護計画の見直しに反映していきたい。
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外食、通院介助、買い物、ドライブ、外泊、花見等季節に合わせた外出を行うように心がけている。	○	家族、本人の希望を尋ねて柔軟な対応ができるように今後も援助を行っていく。
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域での催し物等を利用者に案内し希望があれば参加をするようにしている。	○	本人の意向を尋ねて支援を行っていく。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居するまでのケアマネジャーと連携を図り情報を共有することはある。医療機関のデイケアを利用し精神的安定が図れるように支援を行っている。	○	今後も必要時には、他のサービスの利用を考えていき利用者の生活の向上を図っていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在の利用者の中に権利擁護を利用している利用者はいない。以前に必要と思う利用者がいたので、情報の提供をおこなった。	○	今後、必要時には行っていきたい。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と連絡を取りながら職員が通院介助を行ったり家族が通院介助を行っている。かかりつけ医については、家族と十分に話、専門医院の医療が受けられるように支援している。	○	今後も一人一人病状が違うので必要時に必要に合わせた医療が受けられるように、家族との話を行いかかりつけ医と連携を図っていきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医を受診し普段の様子を受診時に職員が主治医に話すようにしている。必要時には主治医より具体的な指示を仰ぐようにしている。	○	今後も専門院を受診し認知症の病状を理解しケアに努めていく。また主治医と連携を図っていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を職員の中に配置し、急変時にも連絡が取れるようにしている。日常的なアドバイスも受け円滑な健康管理ができ必要があれば看護師から直接医療機関へ問い合わせができるような支援を行っている。	○	今後も看護師を配置して医療、保健、介護の連携を図り適切な援助が行えるように向上していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、家族の了解を得て入院先のケースワーカー、必要時には主治医を交えて、カンファレンスを行い早期に退院が行えるように連携を図っている。家族と電話にて連絡を行ったりその時に応じて対応を行うようにしている。	○	今後もその時の状況に合わせた対応を連携を図りながら行っていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した病状の内容によっては、対応ができる病状と困難と思われることが生じてくるので、家族には、他の福祉施設への申し込み等の案内は行っている。	○	重度化、終末期へ援助は行っていくことが必要と考えているが、その時の病気の病状も考え入院が必要なら医療機関をすすめ入院中に連携を図るような援助を行ってほしい。また職員間で話し合いを行い方針を決めていきたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	病状の内容によっては「できること、できないこと」があるので見極めることは、困難と思われるものの職員、利用者、家族と話し合いを行い。その人に合わせた援助が可能であるなら援助していきたい。困難であるなら次の提供先、医療機関の援助をすすめていきたいと職員間で検討はしている。	○	重度化した時、終末期については、家族、本人の誤解のないように十分な話し合いを行い。その人にとって一番いい援助と思われるのを支援したり情報を提供していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームでの生活が困難と判断し話し合いの結果、別の居所へ移る時は、できるだけ誤解のないように退所の話を行うようにしたが、過去に誤解を生じたことがある。また、次の生活の場を紹介した所、家族が気に入ったところを探した。	○	住み替えの時は、誤解のないように努めていきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人一人に対して尊厳を認め個人情報の取り扱いには十分注意をしている。	○	今後も記録、個人情報について、また利用者へ対しての言葉かけについては、職員の質の向上を図るような研修を行っていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日課の中で、お茶の時間を設け利用者の希望を聞き今日はどうの一日を過ごすかを尋ねるようにしている。	○	希望を表わせる利用者が少ないが、少しでも利用者が考えていることを日々の提供の中に取り入れていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の中には自分の希望を伝えることが困難な方がいるものの、職員は、その人の立場に立ち自分だったらどうしたいか、利用者が嫌な思いをしないか十分に注意を払い援助を行っている。	○	できるだけ、利用者の希望に沿った援助が行えるように個別的な援助を行っていきたい
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に理容、美容室に行くようにしている。入居する前まで利用していた店に行っている利用者もいる。	○	今後も続けていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	今後利用者と共に、利用者の生活を支える援助を行っていきたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	今後も嗜好を取り入れて提供を行う。
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	今後もトイレでの排泄ができるように援助を行っていく。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	利用者の希望に考慮した入浴の援助を行っていく。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	一人一人の生活習慣を重視していくような支援を行っていく。
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	生活歴を考えた個別の援助を、できるだけ行えるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問販売のパン屋さんが来た時、自分のお金で買い物ができるようにまた、職員と一緒に買い物に行った時に日用品が購入できるような支援を行っている。	○	今後も希望時やその人に合わせてお金が使えるような援助を行っていく。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課のお茶の時間、利用者の本日の要望を尋ねて、戸外への要望があれば、援助を行ったり職員の方から「買い物と一緒にいこう」等の声をかけるようにしている。	○	今後も日常的な外出を心がけていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族が本人と外出したり、外泊を行うことの機会を設けている。家族、本人の要望があり、家族で対応できない時、家族からの要請があり、温泉旅行の援助をおこなったことがある。	○	家族、本人の希望に沿った援助を行って行きたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことが困難な利用者が多いので、手紙の援助は、行っていない。本人が家族に電話をすることはよくある。本人が日記をつけている利用者はいる。	○	今後は簡単な言葉から初めて手紙が書けるように援助を行っていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	定期的な家族の訪問、親戚の訪問は多数にある。利用者の部屋でゆっくり話ができるような環境を提供している。	○	いつでも気軽に訪問が行えるように、提供を続けていきたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解して、身体拘束を行っていない。	○	今後も身体拘束をしない援助を行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけたことはない。	○	今後も鍵をかけるような援助は行わない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の日中の業務の内容を分担し、チームワークによってスムーズな援助が利用者に行うように考慮しているが、中には勝手に行動する職員も見られる。その時には、職員へ注意をしてチームワークで仕事をしないと事故が起こることを指摘している。	○	今後も利用者が安全に生活ができるように、職員の質の向上を図っていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その人の状況に応じて、物品は所持している。	○	利用者一人一人に合わせた、援助を行う。必要な物品は状況に合わせて保管・管理をする。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の認知症を理解することで、事故の防止に努めている。またヒヤリハット報告書を利用して情報の共有を図り事故の再発防止を図っている。	○	一人一人の状況に合わせた援助、定期的な会議において、職員の質の向上を図り事故防止に努める。ヒヤリハット報告を利用する。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを準備はしている。	○	行政が主催する、実技の講習会等に参加して質を高めていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを準備を準備して情報の共有を図っている。運営推進委員会を通してお互いに協力することの必要性は感じている。	○	今後も地域との連携を深め、災害時には施設を避難場所に提供をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	グループホームで生活していても、事故は考えられることを、必要時には家族に話すようにしている。	○	今後も家族と連絡を密にはかり、リスクのことについて話し合いを行っていく。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、午後の健康チェックを行う。体調に変化を発見したら、早急に医療機関、看護師へ連絡を図る。必要時には受診を行うことをしている。	○	早期発見、早期対応を行う。家族へ連絡も行う。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理を職員が行い、利用者へ手渡して確実な内服ができるように援助している。服薬が変更した時は記録をするようにしている。	○	今後も職員が管理して確実な内服の援助を行っていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の記録を記載して、一人一人に合わせた排便の援助を行っている。	○	今後も排便のパターンをしり必要に合わせた援助を行っていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後には、必ず口腔援助を行い、必要時には歯科の受診を行っている。	○	必要があれば、今後定期的な歯科受診を考えていく。今まで通り、食後の口腔援助を行う。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事の量を提供している。水分量については、必要な人には一日の水分量を記録している。	○	今後も栄養、水分が不足しないように記録として残し援助を行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症についてのマニュアルを準備して、職員が病状について、把握できるようにしている。	○	職員がマニュアルを読むことで、病状の理解ができる、職場内での勉強会も行っていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は、ハイターの消毒を行う。マニュアルを読み職員が知識を身につけている。	○	職場内の勉強会等を行う、手洗い、消毒を徹底していく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花を植えている。散歩する地域の方が見ていただくことで気分が晴れるようになってもらいたい。	○	玄関周囲に花を植えることで、利用者と一緒に世話ができて、役割ができる。今後もおこなっていききたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を行い、利用者の方が気持ちよく過ごすことができるように心掛けている。居間には花を飾り和やかな雰囲気を味わえるようにしている。	○	今後も居心地のよい居場所を提供していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の座る場所が決まっている。その場所を確保し席のトラブルが起こらないように職員は援助している。居間に職員が必ず一人いて、利用者同士が思い思いに過ごせるように言葉をかけるようにと職員間では援助内容の統一を図っている。	○	業務内容を適切に把握し職員の質の向上に努め、利用者へ適切な援助が行えるようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	自宅で生活していた時の環境を変えることなく、 自由に部屋を使用できるように援助を行い馴染 みの品を自分の部屋に飾っている。	○	今後も本人の使い慣れた品を部屋に置き居心地の いい環境を提供していく。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	日中最低でも一回は空気の入替えをおこなっ ている。エアコンの温度調整は職員が行って いる。	○	換気には、十分に配慮しある程度は職員が管理 していく。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すり等を設けている、段差のない建物。ロー カ、出入り口には、品物を置かないで転倒の防 止に注意している。	○	利用者、一人一人の事を考えて、安全な生活 を提供していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	一人一人の認知症の状態を把握し、できること の援助を行っている。	○	今後もできることを続けていく。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	散歩ができるような環境の所に施設が建っ ているので、気候によって散歩を行っている。	○	戸外活動を定期的に取り入れて気分転換を 図っていく。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりの生活を確保し満足のいく生活を提供していきたいと考えているが、介護の現場で働く職員は沢山のストレスを感じていると思います。認知症の利用者は新しいことに慣れることが困難なで、毎日同じことを行い、一人ひとりに合わせて個別の援助を行うことが良い援助だと考えます。しかしこれを毎日行うことは、困難なので利用者、職員に無理のないように、ゆっくりとした時間の流れの中で個別的な援助が一年を通して季節感を肌で感じ体験できるようにと考えます。春には、梅干し、らっきよを作り、夏には花火を楽しみ秋には戸外へ出かける。冬は風邪を引かないように健康に注意する。